

基準 3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

(1) 3-1 の自己判定

「基準項目 3-1 を満たしている。」

(2) 3-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

本学は、建学の精神に基づいた教育を行い、育成すべき人材像を「ミッション」に謳い、その人材像に至るために身に付けるべき能力をディプロマ・ポリシーに示している。

大学・大学院、学部・研究科、学科・専攻のそれぞれのレベルでミッションと対応したディプロマ・ポリシーを策定している〔表 3-1-1〕。

策定したディプロマ・ポリシーは本学ホームページ上で公開し、学内外に周知している（<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/>）。

〔表 3-1-1〕 ミッションと三つのポリシー（抜粋） （令和 4 年度入学生）

組織	使命(ミッション)	ディプロマ・ポリシー
学芸学部	学芸学部は、建学の精神に基づいた教育を行ない、次のような女性を育てます。 1. 高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。 2. 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。 3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人。 4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。	学芸学部における所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。 ① 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。（情報リテラシー） ② 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。（論理的思考力） ③ さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。（自己管理能力） ④ 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。（問題解決力） ⑤ 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。（チームワーク） ⑥ 社会の中で多様な文化を背景に持つ人々と共生する意思を持ち、ライフイベントや社会的課題に主体的・自律的に対処することができる。（主体性・自律性） ⑦ 学芸学部の幅広い学びにより培われた教養とともに、自らが選択した領域における高度な専門知識・技能を習得したことによる実践的スキルを持ち、自らの言葉で積極的に発信し、社会に貢献できる。（専門的能力）

		国文学科	国文学科は、建学の精神に基づいた教育を行ない、次のような女性を育てます。 5. 日本語・日本文化(言葉・文学・芸能・書道・創作など)に関する知識について学び、教養として身につけることで、正しい日本語や多様な表現を使いこなし、学んだことを自らの言葉で積極的に発信することで、社会に貢献できる人。 6. 大阪・上方のことば文化を積極的に理解し、他者に伝え、受け継いで行ける人。 7. 教員として教育界に貢献することはもとより、図書館司書、出版業界を含む一般企業、行政機関、地域社会などにおいて、日本語の高度な使い手として活躍できる人。	国文学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。 ⑧日本語の多様な表現方法を習得し、かつ豊かな自己表現ができる。(自己表現力) ⑨日本語・日本文化を追究することにより培われた教養によって、他人を正しく理解することができる。(人間理解力) ⑩大阪・上方のことば文化を含め、日本語・日本文化について学んだことを自らの言葉で積極的に発信することで、社会に貢献できる。(自己発信力)
--	--	------	---	--

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

学部、大学院とも、ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準を策定し周知している。

〔学 部〕

学修の評価基準については「学則」第8条に定められ、厳正に適用されている。

具体的には、学修の評価は、試験及び平素の成績によるものとしている。試験は、学期内にその履修した科目について筆記、口述、論文などの方法によって行うこととしている。成績の評価基準は次の通りで、合格の場合単位を認定する。各授業の評価方法については、Web システム（樟蔭 UNIPA）上のシラバスに記載し、授業内でも周知している【資料 3-1-1】〔表 3-1-2〕。

〔表 3-1-2〕成績評価基準

	素点	グレード	GP	成績評価基準	備考
合格	100～90	S	4	到達目標を超えて優れた成績を修めている	
	89～80	A	3	到達目標を十分に達成している	到達目標はこの水準を満たすものとして設定している
	79～70	B	2	到達目標を概ね達成している	
	69～60	C	1	到達目標を最低限達成している	単位を与える最低基準を満たしていることを示す
不合格	59～ 0	D	0	到達目標を達成していない	
合格	合 格	P	—	到達目標を達成している	
不合格	不合格	F	—	到達目標を達成していない	
合格	認 定	Q	—		他大学等での修得単位の認定、協定留学に関わる単位の認定

卒業の要件は、本学に4年以上在学し、学部・学科ごとに定める必修科目を含み学士課

程基幹教育科目と所属学科専攻科目の単位を合計 124 単位以上修得することとしており、これを「学則」に定め（「学則」第 4 条～第 10 条）、この規定に則り、教授会において卒業判定を行う。各学部の修業年限は 4 年とし、8 年を超えることはできない。

学修成果を測る評価方法の一つとして GPA(Grade Point Average)制度を導入している。授業科目ごとの成績に S : 4 点、A : 3 点、B : 2 点、C : 1 点、D : 0 点のポイントを基準に換算し、教育的な指導を中心に活用している。

それらを踏まえて進級制度（2 年次から 3 年次）を導入している。3 年次に進級するためには、2 年次末において卒業要件にかかる科目の単位を 49 単位以上修得し、かつ GPA 値が 0.5 以上でなければならない（「学則」第 6 条第 5 項）。必要な単位を修得できなかった場合、または GPA 値が 0.5 に満たない場合は原級（2 年次）に留め置くこととしている。

単位制度の実質化を保つための工夫として CAP 制度を導入している。この CAP 制度の対象科目は、科目区分に関わらず「学則」上の全科目とし、半期ごとに登録できる単位数の上限を 24 単位に設定している【資料 3-1-2】。

これらの要件、制度については、「学則」及び学部ごとの「履修規程」に規定している。「学則」「履修規程」は、『学生便覧』や『履修ガイド』に収め、学生には入学時及び年度当初のガイダンス期間などで周知している。

【大学院】

大学院における単位の認定、修了の要件などの定め及び運用についても、学部とほぼ同様である。本大学院に 2 年以上在学し、臨床心理学専攻にあつては 43 単位、人間栄養学専攻にあつては 30 単位、化粧ファッション学専攻にあつては 34 単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文または研究課題の審査及び最終試験に合格することを課程修了の要件としている【資料 3-1-1】[表 3-1-3]。

【表 3-1-3】成績評価基準

	素点	グレード	成績評価基準
合 格	100～90	S	到達目標を超えて優れた成績を修めている
	89～80	A	到達目標を十分に達成している
	79～70	B	到達目標を概ね達成している
	69～60	C	到達目標を最低限達成している
不合格	59～ 0	D	到達目標を達成していない
合 格	合 格	P	到達目標を達成している
不合格	不合格	F	到達目標を達成していない
合 格	認 定	Q	

大学院における論文審査の方法、試験及び学力の確認の方法など学位に関する定めは「大阪樟蔭女子大学大学院学位規程」に定めている【資料 3-1-3】

また、学位の認定にかかわる、学位論文の提出にあたっては「大阪樟蔭女子大学大学院学位論文提出内規」により、研究指導にあたっては専攻ごとの「研究指導内規」を定めている【資料 3-1-4～5】。

これらの規程、内規などについては『履修の手引き』（大学院生用）に収め、大学院生には入学時及び年度当初のガイダンス期間などで周知している。

なお、大学院では、進級制度、GPA 制度は採っておらず、登録単位数の上限設定も行っていない。

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

学部、大学院ともに、単位認定基準、進級基準、卒業認定基準・修了認定基準を厳正に適用している。

授業の実施回数の確保については、1 科目 90 分の授業を春期・秋期とも 15 週の授業回数を確保し、16～17 週目に補講・定期試験の期間を設けている。また、休講に対しては授業期間ないし補講期間での補講の実施を義務付けており、学生の学修時間を確保している。

定期試験の受験にあたっては授業回数の 2/3 以上の出席を求めているが、学生の出席管理は、Web システム（樟蔭 UNIPA）の出席管理システムを活用し、授業科目担当教員は Web 上の出席簿に入力し、学生は樟蔭 UNIPA 上で自身の出席状況を確認できるようにしている。

授業科目ごとの成績評価については、シラバスに成績評価の方法・基準を記載し、それに基づき授業科目担当教員が厳正に行っている。

年度末に授業科目ごとの成績評価の分布及び GPA を算出し、科目区分ごと、学部・学科ごとにその内容を分析し、評価の適切性について、教務委員会、学士課程教育センター会議、各学部の点検・評価会議にて検討している。

学生からの成績評価に関する疑義については、成績発表後に「成績内容問合せ票」にて受け付け、授業科目担当教員が書面にて回答している【資料 3-1-6】。

進級判定、卒業判定については、「学則」及び「履修規程」に基づき教授会において審議している。大学院の修了認定については、「学則」に基づき研究科代表者会議において審議している。

(3) 3-1 の改善・向上方策（将来計画）

本学では、大学学部・大学院研究科、学科・専攻のそれぞれのレベルでミッションと対応したディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページにも公開して学内外に周知しているが、学生に周知し浸透させるには未だ十分な取り組みにまでは至っていない。策定したディプロマ・ポリシーは『学生便覧』（学部生用）、『履修の手引き』（大学院生用）に記載の上、年度当初の履修ガイダンスを活用していっそう周知する。

本学ではディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準を策定しており、授業科目ごとの成績評価の方法について到達目標の達成度を基準としているところから明確であるが、授業科目ごとの成績評価の分布については科目担当者・授業形態の違いによりばらつきが生じている。

評価の適切性についてはこれまでも検討して来たが、未だ十分な成果を得るに至っていない。引き続き、教務委員会、学士課程教育センター会議、各学部の点検・評価会議にて評価の適切性について検討していく。

※エビデンス集・資料編

【資料 3-1-1】成績評価基準

【資料 3-1-2】年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

【資料 3-1-3】大阪樟蔭女子大学大学院学位規程

【資料 3-1-4】大阪樟蔭女子大学大学院学位論文提出内規

【資料 3-1-5】大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科化粧ファッション学専攻研究指導内規

大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科人間栄養学専攻研究指導内規

大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻研究指導内規

【資料 3-1-6】成績内容問合せ票

3-2. 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

3-2-④ 教養教育の実施

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

(1) 3-2 の自己判定

「基準項目 3-2 を満たしている。」

(2) 3-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

本学では、「大学設置基準」第 2 条に基づき、学部・学科、研究科・専攻ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を「学則」に明示し、さらに育成する人材像をミッションとして定めている。それらを踏まえてディプロマ・ポリシーを策定している。そのディプロマ・ポリシーに即して、大学では学部・学科レベルのカリキュラム・ポリシー、大学院では研究科・専攻レベルでのカリキュラム・ポリシーを定め、ホームページ上で公開、周知している【資料 3-2-1】。カリキュラム・ポリシーに基づく具体的な内容については、年度初めの学科ガイダンス時における履修指導などで学生に伝えている。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

本学では、ミッションから導き出されるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが一貫性を持って成立するよう注意を払っている。学生にその一貫性を示す工夫の一つとして、全学共通の教育課程である学士課程基幹教育科目のディプロマ・ポリシーとの対応をカリキュラムチェック表で示している。カリキュラムチェック表は『履修ガイド』に掲載している【資料 3-2-2】〔表 3-2-1〕。さらに、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目のシラバスに、「ディプロマ・ポリシーとの関係」「授業科目の位置づけ・レベルを表す記号」の欄を設け数字・記号で表示している【資料 3-2-3】。

〔表 3-2-1〕カリキュラムチェック表（抜粋）（令和4年度入学生）

学士課程基幹教育で身につけるべき資質・技能																						
科目群	区分 (主題)	主題の概要	授業科目名	授業方法	単位数	選択必修区分	配当学年	学士力：学士課程基幹教育で身につけるべき資質・技能														
								D P 1 情報リテラシー	D P 2 論理的思考力	D P 3 自己管理能力	D P 4 問題解決力	D P 5 チームワーク	① 情報収集力	② 情報分析力	③ 客観性	④ 実証性	⑤ 自律性	⑥ 問題発見力	⑦ 問題解決への意思	⑧ 傾聴・理解力	⑨ 表現・伝達力	⑩ 対人関係力
樟蔭コア科目	学びのファーストステップ	学士課程で学ぶにあたって必要な学習のスキルが身についている。	アカデミック・スキルズA アカデミック・スキルズB	B B	1 1		必 必	1 1														
	樟蔭スピリット	本学で学ぶことの意義を理解している。	樟蔭の窓	A	2		必	1	●	●												
	これからの女性	将来女性として社会で生きていく意義を理解している。	女性のライフサイクル ジェンダーを考える	A A	2 2			1～4 1～4					●	●								
	豊かな情操	生涯にわたり芸術などに触れることで、自らの情操を豊かに育む力が身についている。	笑いは人をつなぐ 表現するからだ、考えるからだ 芸術と鑑賞	A A A	2 2 2			2～4 2～4 2～4	● ● ●	● ● ●												
	コミュニケーション (外国語)	母語と異なる言語および言語文化について理解し、自らの言語および言語文化について考えることができる。また、社会生活においてそれらの言語を活用するための基礎的なリテラシーを	Communicative English 101 Communicative English 102 Communicative English 201 Communicative English 202 Communicative English 301 Communicative English 302	B B B B B B	1 1 1 1 1 1	注① 注③ 注④ 注① 注③ 注④ 注① 注④ 注① 注④ 注④ 注④	(教) (教) (教) (教) (教) (教)	1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●												
	言語・情報科目			ドイツ語102 フランス語101 フランス語102 スペイン語101 スペイン語102	B B B B B	1 1 1 1 1	注② 注② 注② 注②	1～4 1～4 1～4 1～4 1～4	● ● ● ● ●													
	コミュニケーション (日本語リテラシー)	言語についての基本的なリテラシーと実践的な言語的・非言語的表現力を身につけており、他者の意見を適切に理解し、自分の考えを効果的に伝えることができる。	日本語表現A 日本語表現B 日本語表現C 日本語表現D 論理トレーニング トータルプレゼンテーション	B B B B B B	1 1 1 1 1 1			1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4	● ● ● ● ● ●			● ●									● ● ●	
	コミュニケーション (日本語のしくみ)		日本語学 言語とコミュニケーション	A A	2 2			2～4 2～4			● ●											
	情報リテラシー	社会生活をおくるにあたって必要な、また学士課程で学ぶにあたって必要な情報リテラシーが身についている。	情報と社会 やさしい統計学 大学生のための数学 情報処理基礎A 情報処理基礎B	A A A C C	2 2 2 1 1		必保	1 2～4 2～4 1 1	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●												
	①生活者・消費者・市民として生きる	自律した生活者、また市民となるための基礎的知識や判断力・責任感を身につけている。	現代社会と生活者の視点 日常生活と法	A A	2 2			1～4 1～4													● ●	● ●
				A	2			1～4	● ●	● ●												
主題別科目	②心と体の健康を考える	現代社会における複雑な人間関係のあり方を理解しており、他者に対して適切に配慮し行動できる。また身体の仕組みやレクリエーションについて基本的なことがらも理解しており、生涯にわたり心身ともに健康に過ごすことができる。	ライフステージと栄養 生命の成り立ち 運動と健康A 運動と健康B 心のしくみ 自己の探求 心の健康 健康の科学 対人関係の心理学 レクリエーションと健康	A A D D A A A A A D	2 2 1 1 2 2 2 2 2 2			1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 2～4			● ● ● ●											
	③今を考える・未来を生きる	自分をとりまく社会を構成するさまざまな要素を、歴史・倫理・ジェンダー・異文化・環境問題などの理解を含めた現代的な観点から把握しており、心豊かで創造的な生活を送ることができる。	文学の読み方 現代に生きる女性たち サブカルチャー論 国際教養入門 日本文化論 現代モード論 化粧品概論 美しく生きるとは 歴史の読み方 宗教と現代 地球と社会の歩き方 美しい地球を創る 国際社会と平和	A A A A A A A A A A A A A	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 2～4 1～4 1～4 2～4 2～4 2～4	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												
	統合的学習経験	学士課程における様々な学びの成果を統合し、それを表現することができる。	総合ゼミナールA 総合ゼミナールB	B B	1 1			4 4														● ● ● ●
	キャリア系科目	自らのキャリア選択に能動的・自主的・肯定的に取り組む、キャリアを選択・決定できる。	キャリア設計 キャリア開発 キャリア研究 インターンシップA インターンシップB インターンシップC	B B A C C C	1 1 2 1 1 1			1・2 2 3 2 3 4	● ● ● ● ● ●	● ● ● ● ● ●												● ● ● ● ● ●

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

本学では、教育課程をカリキュラム・ポリシーに基づき体系的に編成し、その体系はカリキュラムマップ【資料 3-2-4】により表現している。

以下、〔表 3-2-2〕にカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップとの関連について一例を示す。

〔表 3-2-2〕 カリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップとの関連

カリキュラム・ポリシー（学芸学部 心理学科 令和 4 年度入学生）

心理学科の教育目的を達成するために、以下のカリキュラム編成を行う。

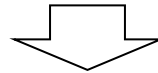
○初年次においては、「人間の客観的・中立的理解」をめざす心理学の学問的基礎とそのための方法論的基礎を学ぶ科目を履修する。さらに心理学各分野の個別の内容を学ぶ科目を履修し、各領域への関心を高める。また心理学における方法論的基礎としての記述統計や、心理学実験に基づくデータ収集およびそれを分析した論文（レポート）作成、心理面接について実習を通して体験的に学ぶ。

○2 年次は、学科基礎科目を中核として、心理学と精神医学などの関連領域について体系的かつ詳細に学ぶための講義科目を履修する。さらに実習科目として、心理検査、調査、実験等を体験的に修得する科目を履修する。

...

...

...



カリキュラムマップ（学芸学部 心理学科 令和 4 年度入学生）

令和4年度入学生カリキュラム カリキュラムマップ

学科・専攻名 心理学科 総合心理学コース		到達目標に対応する授業科目			1年 教				2年 教			
ミッション（教育目標）・到達目標		科目区分1	科目区分2	科目区分3	科目名	単修	履修	科目名	単修	履修	科目名	単修
組織のミッション 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	到達目標1（編） 心理学における知識が身についている	心理学科専攻科目	学科基礎科目	心理学概論	●必	A2	心理学概論	●必	2			
	到達目標2（編） 心理学全般にわたる基礎的知識が身についている	心理学科専攻科目	学科基礎科目	臨床心理学概論	●必	A2		臨床心理学概論	●必	2		
	到達目標3（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	学生課程基礎教育科目	基礎コア科目	芸術と鑑賞		A2						
	到達目標4（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科基礎科目	神経・生理心理学	○公	A2					神経・生理心理学	○公 2
	到達目標5（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科基礎科目	知覚心理学	○	A2				知覚心理学	○	2
	到達目標6（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科基礎科目	感情心理学	○	A2				感情心理学	○	2
	到達目標7（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科発展科目	音楽心理学	○	A2						
	到達目標8（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科発展科目	パフォーマンスの心理学	○	A2						
	到達目標9（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科発展科目	芸術と表現の心理学	○	A2						
	到達目標10（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科基礎科目	社会・集団・家族心理学	○公	A2					社会・集団・家族心理学	○公 2
	到達目標11（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科基礎科目	産業・組織心理学	○公	A2					産業・組織心理学	○公 2
	到達目標12（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科基礎科目	福祉心理学	○公	A2				福祉心理学	○公	2
	到達目標13（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科発展科目	消費と広告の心理学	○	A2						
	到達目標14（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科発展科目	組織と集団の心理学	○	A2						
	到達目標15（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	心理学科専攻科目	学科発展科目	対人コミュニケーションの心理学	○	A2						
	到達目標16（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		社会福祉の原理と政策Ⅰ	精	A2	社会福祉の原理と政策Ⅰ	精	2			
	到達目標17（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		社会福祉の原理と政策Ⅱ	精	A2		社会福祉の原理と政策Ⅱ	精	2		
	到達目標18（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		社会福祉Ⅰ	精	A2				社会福祉Ⅰ	精	2
	到達目標19（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		社会福祉Ⅱ	精	A2					社会福祉Ⅱ	精 2
	到達目標20（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	精	A2						
	到達目標21（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	精	A2						
	到達目標22（編） 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけて卒業できることを約束します。教育、福祉、医療、産業などの領域で活躍できる女性を育成します。（人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。）	精神保健福祉士に関する科目		社会学と社会システム	精	A2	社会学と社会システム	精	2			

平成 26（2014）年度より、カリキュラム・ポリシーに基づき、カリキュラムにおける科目の位置づけと、それらの科目でどのような到達目標を実現するのかを表したカリキュラムマップを学科・専攻ごとに作成している。非常勤講師も含め、各教員はシラバス作成に

あたり Web 上でこのカリキュラムマップを参照しつつ作業が行える体制を整えている。カリキュラムマップそのものについても、年度ごとにふりかえり、ブラッシュアップする機会を教務委員会が中心となり設けている。

さらには平成 26 (2014) 年度より、カリキュラムマップに則ったシラバスが作成されているかどうかの点検 (シラバスの第三者点検) を教務委員会下に「シラバス点検作業部会」を毎年度設置し、シラバスの第三者点検の体制を構築している【資料 3-2-5】。シラバスの作成・点検やカリキュラムマップに関連する情報は、教務委員会からの報告を通じて、個々の教員へ周知している。

カリキュラムマップ、シラバスをもとにしたカリキュラムの点検と改善について取り組んでいるスケジュールを以下、〔表 3-2-3〕に示す。

〔表 3-2-3〕 カリキュラムの点検と改善のスケジュール

カリキュラムマップ、シラバスをもとにしたカリキュラムの点検と改善について																
実施項目	実施内容	学科長	科目担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
カリキュラム・授業内容の継続的点検	◆カリキュラムマップとシラバスの整合性点検（今年度内容について）	●														
	◆（シラバスによる）授業科目間の内容重複・欠落の点検	●	◎													
カリキュラム・授業内容改善	◆カリキュラム改正	●														
次年度入学生のカリキュラムマップの作成	◆DP、CPの確認 ◆到達目標の確認 ◆カリキュラムマップ上に配置	●														
次年度シラバスの作成	◆カリキュラムマップに基づき、シラバスを作成		●													
シラバスの第三者点検	◆カリキュラムマップに示される到達目標と個々の授業科目の到達目標（授業概要・方法）の整合をチェック	●														

3-2-④ 教養教育の実施

本学では、教養教育を含む全学共通の教育課程を「学士課程共通教育」と称しており、学士課程共通教育を実施する組織として、平成 24 (2012) 年度より「学士課程教育センター」を設置し、全学的な実施体制を確立するとともに、全ての学生に対して質の高い教養教育を実施している。

学士課程教育センターは、本学における全学共通の教育課程、すなわち「学士課程基幹教育科目」及び「諸資格教育」(教職、司書・司書教諭、学芸員、社会教育主事、日本語教員などすべての学生に関わる課程) に関し、全学的な実施体制を確立し、全ての学生に質の高い学士課程教育を行うことを目的として設置したもので、以下の業務を行っている【資料 3-2-6】。

- (1) 学士課程共通教育の基本理念、教育目標等に関すること。
- (2) 学士課程共通教育のカリキュラム及び実施体制に関すること。
- (3) 学士課程共通教育と専門教育との連携に関すること。
- (4) その他当センターの目的を達成するために必要な業務

また、センターはセンター長 1 人以下、学士課程共通教育の運営や課題の解決に必要であるとして学長が指名した専任教職員をもって学士課程教育センター会議を構成し、当セ

ンター会議では学士課程共通教育における基本理念、目標、教育課程の編成及び実施などの審議の他、以下の課題について検討することとしている【資料 3-2-7】。

- a 情報教育に関すること
- b 外国語教育に関すること
- c 主題別科目群（健康教育を含む）に関すること
- d 入学前教育に関すること
- e 初年次教育に関すること
- f 学士力評価に関すること
- g 専門教育との連携に関すること
- h キャリア教育に関すること
- i 諸資格（教職、司書・司書教諭、学芸員、社会教育主事、日本語教員）教育に関すること

初年次教育の「アカデミック・スキルズ」は、開設時より全学的な取り組みを進めており、センターの初年次教育の責任者を中心に、科目担当者が授業の内容、方法、評価に関する議論を通じて連携・協力し、確実な成果をあげている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

教授方法の改善を進めるための組織としては、「FD・SD 活動推進委員会」を設置し、以下の取り組みを実施している。

集合型研修としては「FD・SD 研修会」（年に 2 回開催）や「オンライン授業報告会」を開催し、1 年間を通して「相互授業見学・公開」を実施したり、学期末の「授業改善のためのアンケート」（学生による授業評価）を行ったりしている。

令和 2（2020）年度以降の新型コロナウイルス感染症拡大状況の中でその感染拡大防止の観点から遠隔授業の実施が必要となり、遠隔授業の開発・実施に迫られることになった。これに対応すべく「教育開発機構」に「遠隔授業部会」を緊急に設置（令和 2（2020）年 4 月）した。この遠隔授業部会を中心に以下の取り組みを実施した。

- ・授業の形態、方法、使用する ICT ツールの標準化
- ・教員向け ICT ツール活用講座の開催
- ・「授業実施ガイドライン」の作成と授業科目担当者への配信
- ・「オンライン授業の受け方マニュアル」の作成と学生への配信、ガイダンスの開催
- ・授業科目担当者同士の情報交換の場を LMS(manaba)上に設置

この遠隔授業の実施は、コロナ禍による緊急避難的实施ではあったが、これからの教育活動を展開する上でさまざまな事例を蓄積することとなり、今後の新たな授業方法の工夫・開発につながっていくものと予想している。

授業方法の工夫・開発については、複数の教員が連携して教育にあたる初年次教育科目やキャリア教育科目において積極的な取り組みがある。授業科目担当者研修、担当者ミーティング、テキスト・教材開発などを通じて、授業方法の改善・開発を行っている【資料 3-2-8】。

また、学士課程基幹教育科目の中に自校教育科目「樟蔭の窓」を開講していたが、令和 3（2021）年度からはそれを 1 年次必修とし、建学の精神や本学の伝統を伝えることを通し

て本学で学ぶ意義を確認してもらうとともに、社会を構成する市民としての自覚を醸成することにも努めている。

(3) 3-2 の改善・向上方策（将来計画）

カリキュラム・ポリシーを学生や受験生に浸透させるためには、学生向け履修資料や受験生向け広報資料に掲載するのみならず、学生に対してはガイダンスなどでの説明の機会を設けるなどの取り組みを行う。

教授方法の工夫・開発については、全学共通科目での取り組みや、学科専攻科目内のコース・科目群ごとの取り組みの蓄積があるものの、それら個々の取り組み状況の集約やノウハウの共有が十分とは言えない。教務委員会を推進役として、カリキュラムマップ上の系列の科目や段階別の科目のグループ毎に担当者が協議を行える全学的な体制作りを推進する。

自校教育科目「樟蔭の窓」については、その開講の目的を十分に達成することを目指して、教育内容のみならず運営方法についても改善、向上を図っていく。

教養教育と専門教育との連携に関しては実効のある取り組みが求められるところであり、更なる検討と改善を進めていく。具体的には、入学前教育における教養教育部門（学士課程教育センター）と専門教育部門（学科）との協調を運営する組織役割のあり方、また高大連携における教学部門と入試部門との連携を運営する組織役割のあり方など、その基盤となる専門教育の運営組織や教学部門以外などとの連携の深化が課題であり、全学的に取り組んでいく。

※エビデンス集・資料編

【資料 3-2-1】カリキュラム・ポリシー（ホームページ）

【資料 3-2-2】学士課程基幹教育で身に着けるべき資質・技能（カリキュラムチェック表）

【資料 3-2-3】アカデミック・スキルズ A シラバス 他

【資料 3-2-4】令和 4 年度入学生カリキュラムカリキュラムマップ

【資料 3-2-5】大阪樟蔭女子大学教務委員会シラバス点検作業部会規程

【資料 3-2-6】大阪樟蔭女子大学学士課程教育センター規程

【資料 3-2-7】学士課程教育センター会議・議事メモ

【資料 3-2-8】「キャリア設計」、「キャリア開発」、「キャリア研究」テキスト

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

(1) 3-3 の自己判定

「基準項目 3-3 を満たしている。」

(2) 3-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

本学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に行なうことを目的として、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの三つのポリシーに則した評価指標に基づき、学生の学修成果を測定・評価している。

測定・評価は学生の入学時から卒業時までを視野に入れ、機関（大学）・教育課程（学部・学科）・授業科目（個々の授業科目）の3つのレベルにおいて、多面的に行うこととし、各時点・各レベルに評価指標を設定している〔表 3-3-1〕。

〔表 3-3-1〕アセスメント・ポリシー「評価の指標」

アセスメントポリシー「評価の指標」				
時期	番号	機関別 (大学全体)	教育課程別 (学部・学科)	授業科目レベル (個々の授業科目)
入学前・ 入学直後	1	入学試験	入学試験	
	2	新入生アンケート	新入生アンケート	
	3		ブレイメントテスト（英語）	ブレイメントテスト（英語）
在学中	4	GPA	GPA	
	5	修得単位数	修得単位数	
	6	「学生の学修時間の実態や学修行動の把握に関するアンケート」	「学生の学修時間の実態や学修行動の把握に関するアンケート」	
	7	「大学に対する満足度調査」		
	8	「キャンパスライフについてのアンケート調査」		
	9	課外活動状況		
	10	休学・退学状況（休学率、退学率）	休学・退学状況（休学率、退学率）	
	11		学修ポートフォリオ	学修ポートフォリオ
	12	「副専攻」履修状況・修了者数	「副専攻」履修状況・修了者数	
	13		資格取得状況	
	14			成績評価
	15			「授業改善のためのアンケート」
	16	社会人基礎力（ジェネリックスキル）調査	社会人基礎力（ジェネリックスキル）調査	
卒業時・後	17	卒業率	卒業率	
	18	学位授与数	学位授与数	
	19	就職率	就職率	
	20	進学率	進学率	
	21	卒業時アンケート調査	卒業時アンケート調査	
	22	卒業生へのアンケート調査	卒業生へのアンケート調査	
	23		GPA	
	24		単位修得状況	
	25		卒業論文・卒業研究・卒業制作 修士論文	
	26	本学卒業生採用企業へのアンケート調査	本学卒業生採用企業へのアンケート調査	
	27		資格・免許取得者数	
	28		国家試験合格者数・合格率	

A 3つのレベルのアセスメント・ポリシー

ア 大学全体のアセスメント・ポリシー

学生・院生の卒業ならびに修了状況や資格取得状況、あるいは卒業・修了時の満足度他各種アンケート調査、学生・院生の志望進路（就職率など）や過年度卒業生の就職先企業へのアンケート調査などから、学生・院生の志望に沿った学修成果が達成されたのかどうかを検証する。検証結果は、大阪樟蔭女子大学の現状把握、全学的な教育改革・改善、学生生活・学修支援の改善などに活用する。

イ 学部・学科のアセスメント・ポリシー

各学部・学科ならびに大学院研究科各専攻における卒業要件・修了要件達成状況、単位修得状況、資格取得状況、GPA、学修ポートフォリオなどからそれぞれの教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を検証する。検証結果は、各学部及び大学院研究科点検・評価会議において共有するとともに、各学科・各専攻にフィードバックして、教育課程の改善

や、学生・院生の学修支援の改善などに活用する。

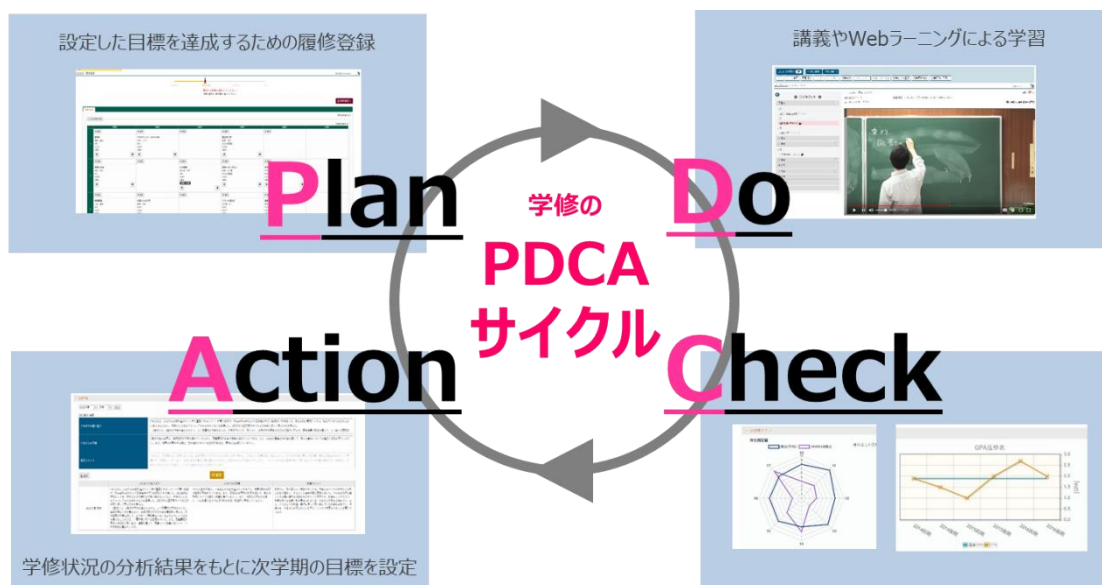
ウ 授業科目ごとのアセスメント・ポリシー

授業科目毎にシラバスで提示した到達目標に対する評価や学生による授業評価などの結果から、授業科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。授業科目の成績評価は、授業科目の特性や到達目標などを踏まえて、教員がシラバスに明示した評価方法に沿って行う。専任教員は、年度末には成績評価結果や学生による授業評価結果などに基づき、年度初めに提出した「教育活動計画書」のふりかえりを行い【資料 3-3-1】、次年度の教育活動の改善につなげている。

B 「学修ポートフォリオ」による学修成果の可視化

本学では、学生一人ひとりが利用できる Web システム（樟蔭 UNIPA）を Web 上で運用している。この樟蔭 UNIPA 内では、学内情報（休講、お知らせなど）へのアクセス、メール、履修登録、シラバス閲覧などの機能に加え、学生個人の学修ポートフォリオを備えている。学修ポートフォリオは、単位の取得状況や履修状況の確認ができる機能と、履修科目の成績をもとにディプロマ・ポリシーごとの学修度を可視化する機能を持っており、学生は樟蔭 UNIPA 上で自らの学びの状況をいつでも確認できる【資料 3-3-2】。さらに学生は半期ごとに自らの「学修目標」とそのふりかえりをシステム上で記述し蓄積し、それらをもとにアドバイザー教員と個別面談や Web 上でのコミュニケーションを行える【資料 3-3-3】。自らの「学修目標」と現在の学びの状況を繰り返し確認することにより、学びの主体として、修得すべき力を計画的に身に付けるよう促している〔表 3-3-2〕。

〔表 3-3-2〕学修ポートフォリオを用いた学修 PDCA サイクル



C 過年度卒業生の就職先企業アンケート

本学では、学生の学修成果を測るため、キャリアセンターが、卒業生が在籍する企業への「大阪樟蔭女子大学卒業生に関するアンケート」を実施している【資料 3-3-4】。調査では、企業に在籍している卒業生を通して、ディプロマ・ポリシーに対する学修成果について

て、企業から見た客観的な評価を調査し、結果について全学点検・評価会議や大学協議会で報告し、各教育課程ごと、教員による教育内容・方法及び学修指導などの改善につなげている。

D 社会人基礎力を測るための外部テストの実施

また、本学では、教育課程の枠を超えた汎用的な能力に基づく学修成果を測るとともに、学生の学修意欲をさらに喚起することを目的として、1年生と3年生に対し、汎用的な能力を測る外部テスト（令和4（2022）年度は、GPS・Academicを採用）を導入している【資料 3-3-5】。受検結果については、学生への返却物に即した「ふりかえり」の機会を設ける一方、大学としては受検データを教学 IR 委員会でも検討し、全学点検・評価会議へ報告するとともに、各学部・学科へ報告し、学生の学修成果の実態把握の参考としている。

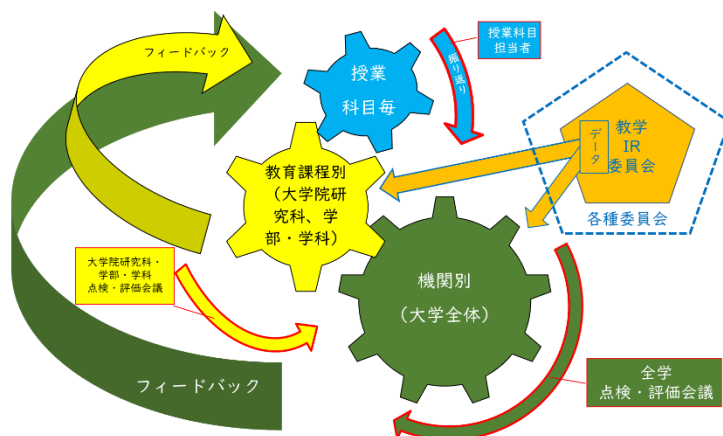
3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

アセスメント・ポリシーに示した各レベルに即して、授業科目レベルでは、「授業改善のためのアンケート」の結果を、科目毎に科目担当教員にフィードバックしている【資料 3-3-6】。学生に対しても、そのアンケート結果を開示している【資料 3-3-7】。そして 3-3-①でも記した通り、専任教員に対して「教育活動計画書」の作成とふりかえりを求めることで教育内容・方法及び学修指導などの改善を促している。

同じく教育課程レベルについては、年度末から次年度開始にかけての時期、大学院研究科及び各学部の点検・評価会議を開催し、3-3-①でも触れた各種データに基づく年度毎の学修成果などについて点検を行っている【資料 3-3-8】。その際、外部評価委員の参画も得ており、社会で求められる学修成果の在り方についても留意している。それぞれの点検・評価会議の結果は、構成員である専攻長や学科長を通して大学院各専攻及び各学科にフィードバックし、次年度以降の教育内容・方法及び学修指導などの改善に活かすとともに、全学点検・評価会議へ報告し、全学的な教育内容・方法などの改善方針の検討に活かしている【資料 3-3-9】。

大学レベルとしては学長を議長とする全学点検・評価会議において、前述の大学院・各学部の点検・評価会議の結果報告や教学 IR 委員会からのデータ分析結果の提供、教務委員会他各委員会からの報告などを総合しながら、年度毎の学修成果を概括し、中期的な観点も組み入れながら次年度以降の教育内容・方法及び学修指導などの改善方針について検討を行っている。そこでの検討結果については、構成員である部館長などを通じて、大学院研究科・各学部、各種委員会、そして事務局各部署においても共有するようにしている〔表 3-3-3〕。

〔表 3-3-3〕 アセスメントに関わるイメージ図



(3) 3-3 の改善・向上方策（将来計画）

「学修ポートフォリオ」を軸とした教育効果の測定と教育改善への取り組みについては、令和 2（2020）年度から新たなシステムに変更したことにより、年次進行で蓄積されるデータをもとに、点検・改善を教務委員会において実施する。

また、その「学修ポートフォリオ」で得られるデータをはじめとして各種アンケートの調査結果など、学修成果を把握するための様々なデータを教学 IR 委員会が中心となって分析し、それに基づく改善に向けての提案を積極的に行う。教育目的の達成状況を確認するためには、教育効果の客観的な評価指標あるいは評価方法の開発だけでなく、学生・修了生の学修成果とみなしうる、その資格取得状況、就職状況、卒業後の社会や企業における評価などについても統合的に把握する必要がある。したがって、それぞれの取り組みを行っている関連各部署の連携を促進するとともに、そのデータ分析を中心的に担う教学 IR 委員会の機能強化を図っていく。

※エビデンス集・資料編

【資料 3-3-1】 教育活動計画書

【資料 3-3-2】 Web システム（樟蔭 UNIPA）（学生カルテ）レーダーチャート画面

【資料 3-3-3】 Web システム（樟蔭 UNIPA）（学生カルテ）目標記入画面

【資料 3-3-4】 大阪樟蔭女子大学卒業生に関するアンケート

【資料 3-3-5】 外部テスト受検状況について

【資料 3-3-6】 個人へのフィードバック

【資料 3-3-7】 授業改善のためのアンケート

【資料 3-3-8】 学部点検・評価会議、研究科点検・評価会議報告書

【資料 3-3-9】 全学点検・評価会議の議題

〔基準 3 の自己評価〕

本学では、「学則」に定める教育研究上の目的に則って、各学部・学科・専攻、及び大学院研究科・各専攻のディプロマ・ポリシーを定め、ホームページで周知を図るとともに、年度毎にその検討、見直しも行っている。そして、ディプロマ・ポリシーに基づき、「学則」

に単位認定・進級認定・卒業認定・修了認定の基準を定め、それらを厳正に適用している。

また、ディプロマ・ポリシーに基づいてカリキュラム・ポリシーを策定し、ホームページなどを通じて周知している。『履修ガイド』には、学士課程基幹教育科目についてはカリキュラムチェック表を掲載し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの一貫性が学生にも理解できるよう努めている。教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づき体系的に編成し、それをカリキュラムマップにより明示している。シラバスについては、教務委員会が中心となってその整備を進めてきた。特に平成 26 (2014) 年度からは、教務委員会の下にシラバス点検のための大阪樟蔭女子大学教務委員会シラバス点検作業部会を毎年度設け、その整備・充実に努めている。

教養教育については、学士課程教育センターによって全学的に実施し、その教育内容の質の維持と向上に鋭意務めている。

教授方法については、FD・SD 活動推進委員会などが中心となって、工夫・改善を推進している。また、新たに工夫された授業方法については、情報の共有を図り、さらなる改善に取り組んでいる。

学修成果の点検・評価に関しては、3つのレベルのアセスメント・ポリシーを策定して多面的にその点検を図るようにしている。また、学生一人ひとりに対しては、「学修ポートフォリオ」によって学修成果を可視化してフィードバックしている。ただ、現在運用している学修ポートフォリオシステムは、令和 2 (2020) 年度に更新したシステムであり、未だ不十分な点もあるため、今後、教務委員会を中心にさらなる充実を図る。一方、FDの一環でもある「授業改善のためのアンケート」や「授業公開」に関する情報共有、あるいは卒業生の「就職先企業に対する大学教育成果に関するアンケート」といった方法によっても学修成果を点検し、教育内容・方法及び学修指導の改善に活かすようにしている。

以上のような点から、基準 3 の評価項目を満たしていると判断する。